企業研修の現場から vol.3-2

【創業者を支援するための教育】

創業への熱意と信念

五十嵐 久 中小企業診断士

プロフィール
いがらし・ひさし●大学卒業後、公的な中小企業支援機関で人事教育研修部門や中小企業の資金調達・経営支援業務などに従事。現在は、主に創業を志す人のための創業者教育をはじめとした創業者支援に取り組んでいる。人材育成研修コンサルタント養成講座修了。中小企業診断士、産業カウンセラー、GCS認定コーチ。

創業者の教育も、基本的に企業内教育と大きく異なるものではありません。前号でも触れましたように、今やビジネスパーソンも、「経営者マインド」が求められています。

しかしながら、そもそも創業者（経営者）の育成など可能なのだろうかという疑問があります。もちろん、経営者として必要な基本的スキルについては、本を読んだり、先輩経営者の話を聞いたりして身につけることはできますが、成功している多くの創業者に共通するものとして、事業にかける熱意とか意欲、信念といったマインドに関わる部分が大きいという声を耳にします。

一橋大学大学院教授菅野寛氏は、その著書『BCG（ボストン・コンサルティング・グループ）流経営者はこう育てる』（日経ビジネス人文庫）の中で、「経営者に必要な能力は、先天的に与えられた「資質」ではなく、後天的に習得可能な「スキル」である（中略）。ビジネスパーソンは、そうなりたいという強烈な意志さえあれば、経営者としてのスキルセットを身につけることができる。そのうえで、チャンスをつかんで努力すれば、経営者になることは可能である」ということを言われています。

先日ある会合で、哺乳瓶を製造販売しているA社のY社長の話を伺う機会がありました。A社は、赤ちゃんが飲みやすいように少しカーブを描いた形の哺乳瓶を開発・販売して成長を続けている会社です。

それまで普及していた通常の哺乳瓶は、赤ちゃんがミルクを飲む時に横にならないと飲みにくいため、赤ちゃんにとっては負担が大きく、中耳炎などの病気を抱えている赤ちゃんにとっては耳のためにもよくありません。Y社長はご自身の子育て体験の中で、そのような赤ちゃんのために絶対に必要なものだとの強い信念のもと、試行錯誤を繰り返しながら製品化にこぎつけたと言います。

また、私がお手伝いしているS社のN社長は、起業前に勤めていた会社の海外赴任先で、たまたま目にした韓流ドラマの主人公たちが、鍵を持たずにドアの開け閉めをしているのを見て、電子錠というものの可能性を感じ、「これは必ず世の中のためになる」と確信し、多くの人に使ってもらいたいと思い起業を決意しました。

この二人の社長に共通しているのは、ゆるぎない信念です。強い思いがあるから、多くの困難があっても乗り越えることができたものと思われます。

いわゆる〝起業家精神（アントレプレナーシップ）〟と言われているものです。起業家精神とは、いかなる環境、条件の中においても自らの限りなき可能性を最大限に発揮して道を切り拓いていこうとする精神のことです。

創業を志す以上、社会に対して何を訴え、何を提供したいのかが明確でないとうまくいきません。企業経営者にとって最も大切なことは、内外に向けてビジョン（将来のありたい姿）とミッション（企業が果たすべき役割・使命）を明確にすることです。このことが事業を継続発展させていくうえで不可欠です。そのため、創業者のためのセミナーなどでは、その熱い思いを語ってもらい、そのことにどれだけ多くの人に共感してもらえるかということを重視しています。

まず家族や友人・知人など身近な人に共感してもらえないようでは、事業としての成功はないと言っても過言ではないからです。